

# カメルーン★どうでしょう

2024年1月  
カメルーン通信 No.15  
JICA 海外協力隊  
出町 卓也

## Les bâtiments de l'école d'Eséka.

Bonne année 2024！カメルーンからでまちです。今年は首都ヤウンデで年を越しました。年が変わってすぐに花火が打ち上げられた夜空がキレイでした。元日は家族でゆっくり新年を過ごし、翌2日から仕事や学校が始まるのがカメルーン流です。

気が付けばここに来て1年以上が過ぎました。時の流れは早いものです。去年の経験があるため、学校の流れもだいたい分かるようになってきました。来年の今頃は日本にいるでしょう。今できる精一杯の活動に取り組みたいと思います。



### ◇小学校の建物はどうなっているか。

今回は学校の建物を紹介します。私が巡回訪問する学校には、基本的に各学年の教室と校長室、そしてグラウンドがあります。場所によっては集会所や井戸などもあります。

建物は長屋のようになっており、一つの長い屋根の下に、複数の教室があります。広さは日本とあまり変わりません。開け閉めするような窓はなく、レンガの隙間を空けたり、柵をはめこんだりしています。また、日本のように特別教室はありません。体育などで外に出ない限り、全ての科目を教室の中で学習します。



エゼカの小学校は基本的に同じ作りです。2階建てはありません。



中は教室ごとに壁で仕切られていますが、上の部分が空いているので、よく声が聞こえます。



始業前や下校前は掃除をします。教室内では机を動かして、隅まで掃き掃除をしています。





教室の中は、前面に黒板があり、その脇に教師机。そして黒板に向かい合うように生徒用長机があります。一つの机には2〜3人座っています。椅子は机と一体化しているため、起立着席時に椅子を引いたり押したりすることはありません。一方、サイズ調整が難しく、年上の体が大きな子どもからすると、ちょっと窮屈そうです。机の天板下には、教材をしまうスペースがあります。ここに教材やカバンを入れる子もいますが、時々このスペースがない机もあります。

後ろには隅に掃除道具があるだけで、個人の所有物を置くようなロッカーなどはありません。よって、自分のスペースは机周りのみ、ということになります。カバンは自分の脇に置くか、机の角にうまくひっかけています。低学年の子どもたちはカバンを背負ったまま授業を受けていることもあります。

教室には掲示物が何点か飾られています。英語や現地語の月日が描かれたものや、子どもたちが描いた絵などが掲示してあります。



学校の周囲は塀や校門はありません。むしろ生活で使われる道が通っていて、多くの人が時間を問わず学校の敷地を通り抜けています。また、学校の周囲は年間通して草木がたくさん生い茂っているので、定期的な草刈りが必要です。伸びたままにしていると、大人の身長も超えてしまいます。

学期のはじめは全校で草刈りをすることもあり、男子が鉈で大きな草木を刈り、女子は小さな鍬で雑草を抜きます。私も手伝うことがありますが、子どもたちにはかないません。中には岩で鉈を研ぐことができる子どももいて、熟練の技を見せてくれます。

グラウンドは凸凹があります。岩がむき出しだったり、雑草が生い茂っていたりして、私はよくつまずいています。しかし、子どもたちが遊ぶには十分なスペースです。休み時間はいつもサッカーをする子どもたちで溢れかえっています。また、理科の授業の一環でグラウンドの隅に畑があり、トウモロコシやプランテン（調理用バナナ）の木を植えています。あまり手入れしなくてもどんどん育つ、と先生は言います。



自然豊かな環境で、住民の暮らしとも共存している場所。それがエゼカの小学校だなど、私は感じています。建物が低い分、空が広く見えるのが個人的な推しポイントです。それでは、A bientôt !